

決算説明会

2018年3月期第2四半期



2017年11月16日

 株式会社田中化学研究所

目次

1. 2018年3月期 第2四半期決算ハイライト
2. 2018年3月期 第2四半期決算トピックス
3. 製品別販売数量 前期との差異要因
4. 主原料国際価格推移（\$/LBベース）
5. 営業外収支および特別損益
6. 比較貸借対照表
7. キャッシュ・フロー計算書
8. 2018年3月期通期予想
9. 製品別販売数量推移予想
10. 業績予想の補足説明

1. 2018年3月期 第2四半期決算ハイライト

(単位:百万円)

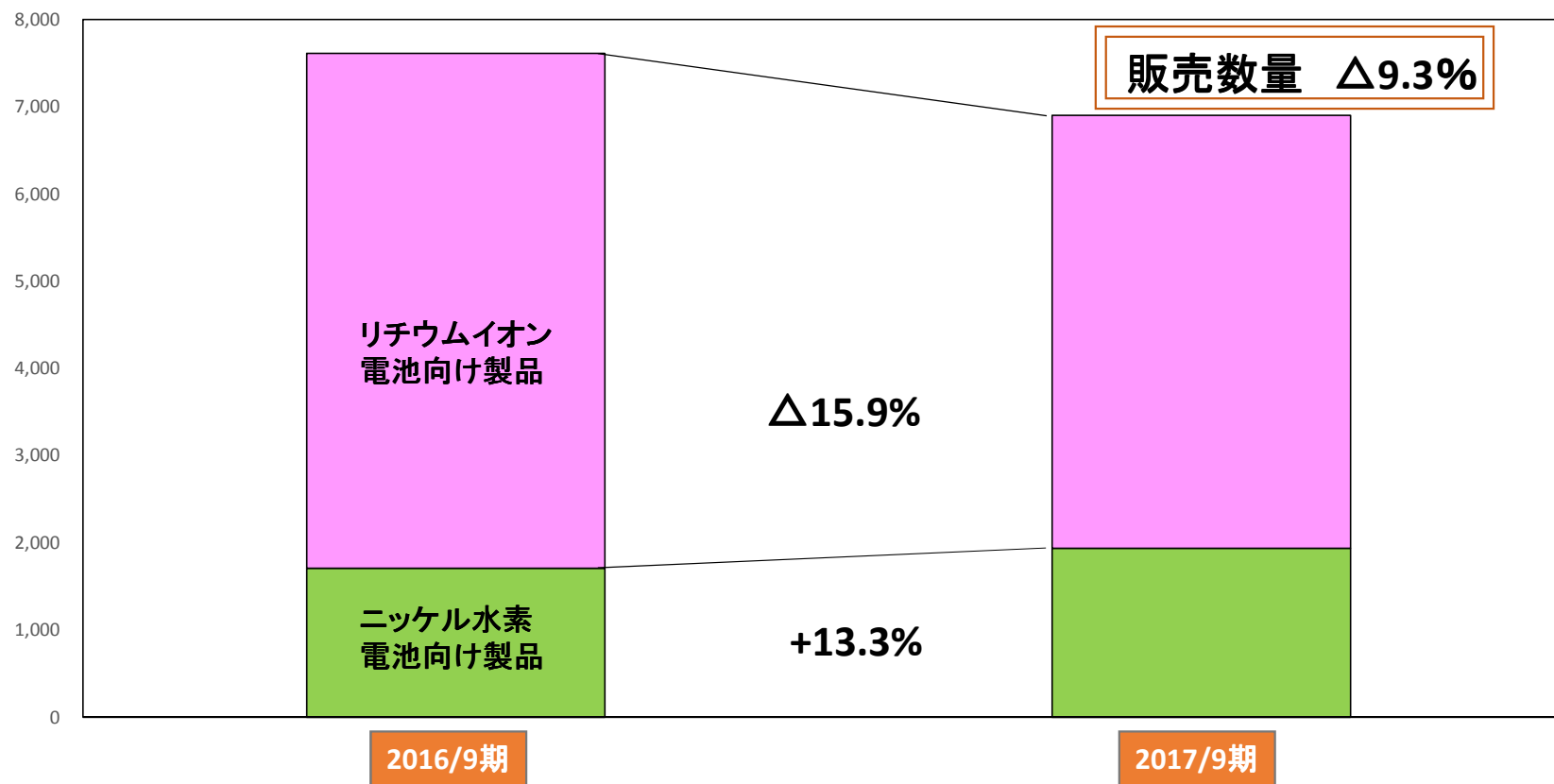
	2016/9期	2017/9期	増減	増減率
売上高	7,685	8,989	+1,303	+17.0%
営業利益	△104	373	+478	—
経常利益	△215	337	+553	—
四半期純利益	△198	309	+507	—
EPS(円)	△13.35	12.21	—	—
設備投資額	85	108	+22	+26.3%
減価償却費	397	240	△157	△39.4%
期末従業員数(人)	183	192	+9	—

2. 2018年3月期 第2四半期決算トピックス

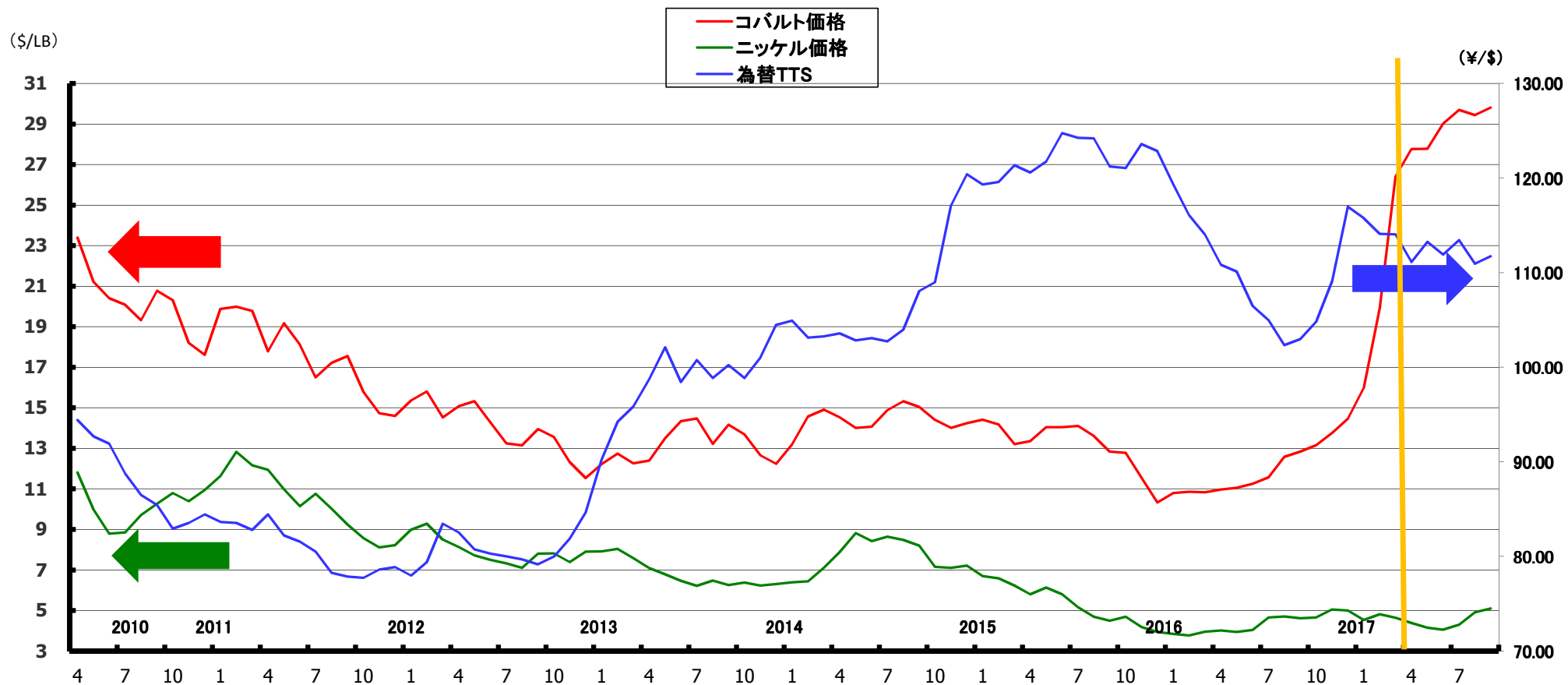
- 販売数量は前年比 $\Delta 9.3\%$ 、受注は回復傾向
 - ・ リチウムイオン電池向け $\Delta 15.9\%$ (民生用途 $+19.1\%$ 、車載用途 $\Delta 74.4\%$)
 - ・ ニッケル水素電池向け $+13.3\%$ (民生用途 $\Delta 45.6\%$ 、車載用途 $+46.9\%$)
- 主原料相場
 - ・ コバルト相場は急激な上昇
 - ・ ニッケル相場は小幅な動き
- 上方修正
 - ・ ニッケル及びコバルトの国際相場の上昇基調で推移したことによる利益の押し上げ
- 追加設備投資
 - ・ NCA系設備増強 (既存ライン改良) 101百万円
 - ・ 量産試作ライン設備増強 59百万円
 - ・ 原料溶解設備増強 1,800百万円 (予定)

3. 製品別販売数量 前期との差異要因

(単位:t)



4. 主原料国際価格推移 (\$/LBベース)



5. 営業外収支および特別損益

(単位:百万円)

	2016/9期	2017/9期	増減
営業外収支	△110	△36	+74
金融収支	△43	△11	+32
為替差損	△50	△23	+27
その他	△16	△2	+14
経常利益	△215	337	+553
特別損益	14	△0	△14
税引前四半期純利益	△201	337	+538
法人税等	3	△27	△30
四半期純利益	△198	309	+507

6. 比較貸借対照表

(単位:百万円)

	2017/3期	2017/9期	増減
流動資産	9,845	11,291	+ 1,445
現預金	1,521	1,997	+ 475
売上債権	1,924	2,032	+ 107
棚卸資産	2,957	3,922	+ 964
グループ預け金	3,000	3,000	—
その他	441	338	△ 102
固定資産	3,953	3,846	△ 106
有形固定資産	3,819	3,692	△ 126
機械装置他	2,627	2,485	△ 142
土地	1,125	1,125	—
建設仮勘定	66	81	+ 15
無形固定資産	14	12	△ 2
投資等	119	141	+ 21
資産合計	13,798	15,137	+ 1,338

	2017/3期	2017/9期	増減
流動負債	3,027	4,268	+ 1,241
仕入債務	2,075	3,225	+ 1,149
借入金	300	300	—
その他	651	743	+ 91
固定負債	3,017	2,802	△ 215
借入金	2,700	2,550	△ 150
その他	317	252	△ 65
負債合計	6,045	7,071	+ 1,026
資本金	5,779	5,779	—
資本剰余金	3,286	3,286	—
利益剰余金	△ 1,326	△ 1,016	+ 309
自己株式	△ 2	△ 2	—
その他	16	19	+ 2
純資産計	7,753	8,066	+ 312
負債純資産合計	13,798	15,137	+ 1,338
自己資本比率	56.2%	53.3%	△ 2.9%

7. キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2016/9期	2017/9期	増減
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期純利益	△ 201	337	+ 538
減価償却費	397	240	△ 157
運転資本増加による資金の減少	281	77	△ 205
その他	225	111	△ 114
営業活動によるキャッシュ・フロー	704	768	+ 64
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得	△ 197	△ 91	+ 106
その他	△ 2	0	+ 2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 199	△ 91	+ 108
フリー・キャッシュ・フロー	504	677	+ 173
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期借入金の返済による支出	△ 154	△ 150	+ 4
その他	△ 64	△ 55	+ 9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 219	△ 205	+ 14
現預金等換算差額	△ 10	3	+ 13
現預金等増加額	275	475	+ 200
期末現預金残高	3,168	4,997	+ 1,829

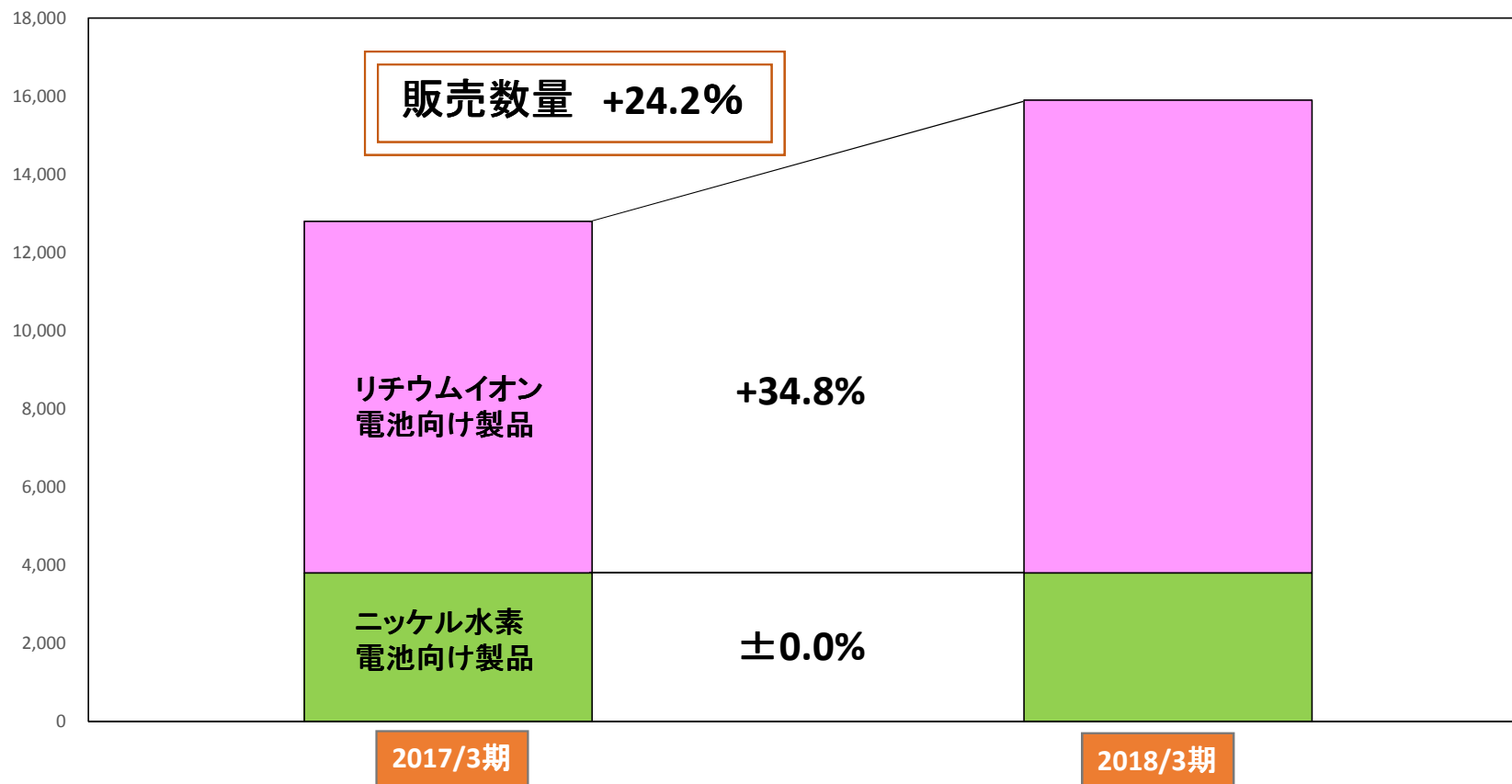
8. 2018年3月期通期予想

(単位:百万円)

	2017/3期 実績	2018/3期		増減	
		前回発表 予想	今回修正 予想	前期比	前回 予想比
売上高	13,254	18,000	21,000	+7,745	+3,000
営業利益	△406	250	500	+906	+250
経常利益	△654	220	450	+1,104	+230
当期純利益	△640	200	400	+1,040	+200

9. 製品別販売数量推移予想

(単位:t)



10. 業績予想の補足説明

- 業績予想には、ニッケル・コバルト等の主原料メタル価格の変動要因は織り込んでいません。
- 数量面では前期比24.2%の増加を計画しております。
 - ・ リチウムイオン電池向け+34.8%
第二四半期間での前年同期比では15.9%減少も、環境対応車向け事業の拡大
 - ・ ニッケル水素電池向け±0.0%
民生用途は減少も、環境対応車向けは拡大
- 原料溶解設備(1,800百万円)の増強及び既存ライン改良によるNCA系設備(101百万円)の増強等の追加投資を計画しております。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確認に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績等は予想値と異なる場合があります。

(注意事項)

本資料に掲載されている田中化学研究所の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、田中化学研究所の事業領域をとりまく経済情勢、市場における田中化学研究所の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において田中化学研究所が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。